

特集

宝酒造の社会貢献活動

2つの環境教育活動

～宝酒造「田んぼの学校」& 宝酒造「エコの学校」～

宝酒造の環境活動では事業活動と関係の深い「自然保護」と「空容器問題」への取り組みを環境活動の2本柱と位置付けています。ここでは、次世代を担う子どもたちへの2つの環境教育活動、宝酒造「田んぼの学校」と「エコの学校」を紹介します。

当社は、自然の恩恵を受けて、焼酎や清酒、本みりんなどの調味料を長年に渡り造ってきました。このため、昔から自然を愛し大切にすることが社員に受け継がれてきており、企業理念にも「自然との調和」を謳っています。

例えば、現在のように環境に関する企業の社会貢献活動が一般化していなかった1979年に、「カムバック・サーモン・キャンペーン」を開始しています。その後も、「公益信託タカラ・ハーモニストファンド」の設立をはじめ、「日本の松を守ろうキャンペーン」や「四万十川の清流を守ろうキャンペーン」などさまざまな自然保護活動を行ってきました。

一方、当社の商品はガラスびんやPETボトル、紙パックなどさまざまな容器に詰めて販売していますが、商品が消費された後に発生する空容器が家庭から出るごみの約6割を占めており社会に大きな環境負荷を与えています。このため、早くから容器の3R(Reduce:減量化、Reuse:再使用、Recycle:再資源化)を考慮した商品開発を進めるとともに、当社独自の取り組みとして新たな容器を必要としない焼酎のはかり売り(Refuse:発生回避)を加えた「4Rの取り組み」を進めています。

21世紀に入り、これまでの活動に加えて新しく取り組もうと考えたのが、次世代を担う子どもたちへの環境教育です。ここでも、環境活動の2本柱それぞれに対して、宝酒造「田んぼの学校」と「エコの学校」という2つの環境教育活動を実施しています。

環境活動は何より続けることが大切だと思っています。今後も、「自然保護」と「空容器問題」への取り組みを中心に、さまざまな環境活動を末長く続けていきたいと考えています。



宝酒造株式会社 取締役(環境広報担当) 鷲野 稔

環境教育活動を実施するにあたって考えたこと

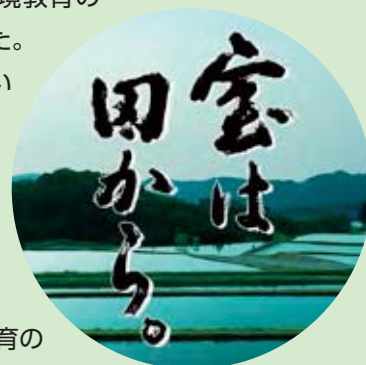
事業活動と関係が深いテーマを選ぶ

実施する環境教育のテーマの選定にあたっては、事業活動と関係が深いものを選びました。環境活動において大切なことの一つは、一過性の活動で終わらず長く続けることですが、それは環境教育においても同じことです。企業にとって、事業活動と関係が深いテーマは社内外の理解が得やすく、その分その活動を長く続けやすくなります。このような考えから、当社の環境活動の2本柱と位置付けている「自然保護」と「空容器問題」に関連するテーマを選びました。

「自然保護」をテーマとした環境教育の舞台として「田んぼ」を選びました。

これは、農薬を使用していない田んぼは生物多様性に富んでいて環境教育の場としてふさわしいことが第一の理由ですが、社名の宝が「田から」に由来することも田んぼを選んだ理由です。

“田んぼ”は、当社らしい環境教育の場だと思っています。



五感を使って体感する（宝酒造「田んぼの学校」）

インターネットの普及により情報の入手が容易な社会となり、さまざまな生き物や生態系の情報も簡単に得られるようになりました。一方で、都市部に住む子どもたちにとって日常生活で触れることのできる生き物の種類は昔と比べて非常に少なくなっています。

このような背景から、宝酒造「田んぼの学校」の企画にあたっては、生き物の名前などの知識の習得より、五感を使って感じ取ってもらうことを重視しました。ぬるっとしたカエルに触ったり、植物の香りを嗅いだり、口に含んで味わってみたり。また、稲作体験においても、土の感触を感じ取ってもらうため、長靴を履かずに田んぼに入ってもらっています。



開催地域に合わせた授業内容（宝酒造「エコの学校」）

ごみ問題の現状は、各自治体により異なります。また、ごみの分別方法やごみを減らす方法の教え方についても、自治体によって異なります。例えば、ごみの減量方法について、リデュース、リユース、リサイクルの3Rを教えている地域や、3Rにリフューズを加えた4Rの地域、さらにリペア（修理）を加えた5Rの地域などさまざまです。このため、子どもたちが混乱しないよう、それぞれの地域に合わせた授業内容にする必要があります。

このような考えから、宝酒造「エコの学校」は、自治体や環境学習施設との共催で、それぞれの地域に合った授業内容となるよう事前準備を行っています。

宝酒造「田んぼの学校」

宝酒造「田んぼの学校」は、小学生とご家族を対象とした環境教育&食育プログラムで、2004年から毎年開催しています。5月から12月までの約半年間に計4回の授業を行います。最初の3回は京都府南丹市園部町の自然豊かな里山で開催します。主な授業は、お米作り体験と田んぼ周辺の植物や昆虫などの生き物観察(自然観察)です。4回目は、京都市内のクッキングスクールで、みんなで育てたお米(もち米)やもち米から造られる本みりんを使って親子で料理をしたり、本みりんの調理効果などについて学びます。

 B:宝酒造 田んぼの学校

春—田植え編



田植え体験では、20cmほどに育ったもち米の苗をひとり2列ずつ植えていきます。自然観察では、「～五感を使って～はじめよう自然観察」をテーマに2～3家族ずつの班に分かれて、田んぼの周辺の生き物を観察します。

夏—草取り編



草取り体験では、生長の妨げとなる草を抜いたり田んぼの中に埋めたりして、稲が育ちやすい環境をつくります。自然観察では、「～五感を使って～田んぼとそのまわりの生きものたち」をテーマに、マツモムシやコオイムシなどの水生生物をはじめ豊富な生き物たちを観察します。

秋—収穫編



稲刈り体験では、1mを超える大きさに育った稲をカマで刈り取ります。また、千歯こきやこきばしによる脱穀も体験します。自然観察では、「～五感を使って～いのちをつなぐ」をテーマに、いろいろな方法で子孫を残す生き物の知恵を学びます。

冬—恵み編



料理教室では、収穫したもち米や本みりんなどを使って親子で料理をつくります。大人を対象とした「みりんの楽校」^{がっこう}の授業では、本みりんや料理清酒について知識を深め、その間、子どもは「田んぼの学校特製本みりん」に貼るラベルを作ります。

宝酒造「エコの学校」

宝酒造「エコの学校」は、小学3～6年生とご家族を対象とした環境教育プログラムで、2012年から毎年開催しています。2015年度は京都市・神戸市・東京都江東区の3都市の環境学習施設で各2回ずつ開催しました。1回150分、3時限構成のプログラムで、自分たちが住む街のごみ問題の現状やごみを減らす方法についてリサイクル体験などを交えながら楽しく学びます。

 C:宝酒造 エコの学校

1 時限目



1時限目は、自分たちが住む街のごみの現状について学びます。

ごみの種類や量はどうか変化してきたのか、ごみの処理にどれくらい税金が使われているのか、ごみの分別はどうしたら良いのかなど、環境学習施設を見学しながら講師の説明を受けます。

2 時限目



2時限目は、ごみを減らす方法について学びます。

エコバックやマイボトル、マイ箸の利用、詰め替え品や簡易包装品の購入など、生活の中で誰でも簡単にできるごみを減らす方法を学びます。

3 時限目



3時限目は、あまりリサイクルが進んでいないアルミ付き紙パック（酒パック）のリサイクル体験です。アルミ付き紙パックからパルプを取り出し、これを材料にして紙漉きを行い、オリジナル絵はがきを作ります。

スマートフォンで、
「田んぼの学校」全4回の活動レポートを
ダイジェスト動画でご覧いただけます。



<http://www.takarashuzo.co.jp/promo/env/03/>

スマートフォンで、
「エコの学校」の動画レポートを
ご覧いただけます。



<http://www.takarashuzo.co.jp/promo/env/04/>

社外の協力を得て運営

環境教育活動の実施にあたっては、社外の方々の協力を得て運営しています。

例えば、宝酒造「田んぼの学校」では、企業である当社主催のもと、地元農家・行政・NPO法人・大学の4者のご協力をいただいています。

地元農家の方々には稲作体験の講師を、行政では京都府の後援をいただいています。NPO法人は、NPO法人森の学校とNPO法人自然観察指導員京都連絡会の2つの団体の協力を得ており、それぞれ企画・運営支援や自然観察の講師をお願いしています。さらに、地元大学の学生には自然観察の補助や最終回の恵み編における食育授業を行っていただいています。また、授業内容は毎年農家やNPO法人の方々と相談しながら見直しを行っています。

●「田んぼの学校」の場合



VOICE

私たちは、2004年の開校当初から関わらせていただいています。その理由の第一は、企業精神の根幹に自然への深い理解があることと環境問題への先進的で継続的な取り組み姿勢があることです。第二は、環境教育のステージが「田んぼ」であるということです。「田んぼ」なら日本中に数多くあります。身近な「田んぼ」での環境教育の手法がひろまれば、より多くの子どもたちが、それを体験できることになると考えたからです。その成果の一つは開校の年から出てきました。参加したお子様の希望で、家族だけの自然観察を始めたということをお聞きました。

NPO法人森の学校 代表 佐伯 剛正 氏



環境教育プログラムにおける工夫

長く記憶に留める工夫

宝酒造「田んぼの学校」の授業の終わりには、「ふりかえり」の時間を設けています。これは、その日の体験の中から最も印象に残ったことを絵や文章で描くことで心に深く刻み込むものです。一過性の記憶に終わらせず、少しでもこの日感じたことが長く記憶に残ることを願って、このような時間を設けています。



みんなの前で発表

「ふりかえり」授業の様子

自宅でも体験できるように

宝酒造「エコの学校」の授業の中で一番人気は3時限目の紙漉き体験です。ちょっとしたコツを覚えれば、簡単にオリジナルの絵はがきを作れるのが人気の理由の一つです。この紙漉きを「エコの学校」が終わった後も自宅でもできるよう参加家族には「紙漉きキット」と手順書をプレゼントしています。



紙漉きキットと手順書

収穫したもち米で造った本みりんをプレゼント

宝酒造「田んぼの学校」では、収穫したもち米を使って、当社の工場で作製の本みりんを造ります。子どもたちが両親への感謝の気持ちをこめて手づくりしたオリジナルラベルを貼って、参加者のもとに届けます。参加者からは、「娘が調理を手伝うようになった」などのお便りをいただいています。



田んぼの学校特製本みりん

「おうちで田んぼ体験キット」をプレゼント

宝酒造「田んぼの学校」は毎回たくさんの応募をいただくため、抽選で参加家族を決めています。残念ながら落選されたご家族にはお米作りの疑似体験をしていただけるよう「おうちで田んぼ体験キット」(バケツ稲)を作成し配布しています。また、このキットは落選者以外にも、希望される一般の方にもプレゼントしています。



おうちで田んぼ体験キット



Column 環境教育プログラムがさまざまな賞を受賞

宝酒造「田んぼの学校」はその活動内容が評価され、2014年に第1回「青少年の体験活動推進企業表彰」(文部科学省)で審査委員会特別賞を、2011年には第9回企業フィランソロピー大賞特別賞を受賞しました。